

ミニキャン7期 ｜ Zoomレッスン 第2回

りんご・半割りりんご

丸ごとのりんごを成形・着色し、半割りりんごはその原型から型を取って作ります。
今回の色は「正解」ではなく**ガイド**。基本ができたら、自分の色に応用してみてね。

◎ 用意するもの

粘土
樹脂粘土　ブルーミックス ／型取り用。今後も使うなら大きいサイズが◎

粘土の着色
パーマネントイエロー ／果肉の色　バーントシェナ＋ブラック ／ヘタ・種

絵の具（アクリルガッシュ）
● パーマネントレッド　● 松葉色　● イエローオーカー
● バーントシェナ　● ブラック　○ ホワイト

塗料・仕上げ
レモンシロップ ／半割りの蜜（任意）　ツヤなしニス ／皮
ジェルメディウム ／半割りの断面

道具
スケール ／今回はF
キャムロンプロ ／お尻でくぼみを作る（なければ丸いお尻の細工棒）
筆 ／1cm程度の筆・キャムロンプロ 10/0・100/0
爪楊枝・スポンジ・クリアファイル　目打ち・デザインナイフ・カッター
タッパー ／ひび割れ防止

その他
ワイヤー28番・ニッパー　プラ板・両面テープ　ベビーオイル・歯ブラシ
木工用ボンド　コルネ ／種づくりが難しい人

0 観察：りんごは「丸」じゃない

りんごを**横にスパッと切ると、種が星型（五角形）**に並んでいます。上から見ても下から見ても、りんごは実は**五角形の性質**を持っています。形が崩れたりんごでも、よく見ると「1・2・3・4・5」の面があります。



横に切ると、種が星型（五角形）に並んでいる

- さくらんぼのような**まん丸に成形すると、りんごになりません**
- **下半分に直線的なライン**を入れて、ふんわり五角形を感じさせる
- 五角形・六角形・四角形になってもOK。大事なのは「直線のラインを作る」こと

> ★ **りんごは形をとるのが難しい**
> 美大生が最初のデッサンで描かされるのがりんご。それくらい形をとるのが難しく、練習にぴったりな素材です。

1 粘土を計量・着色する

スケールF **1個 ＝ りんご1個分**。半割りりんごの原型に1個使うので、**最低2個分**作ります（マキは3個）。

1. 作りたい個数分をFで計量し、まとめる
2. **パーマネントイエロー**で着色
   黄色は色が入りやすいので少しずつ。目安は**白桃より少し濃いくらい**（りんごの果肉の色）。
3. 着色したらラップに包む



果肉の粘土の色（白桃より少し濃いくらい）

2 りんごを成形する

1. 着色した粘土をもう一度Fで量り、よくこねる
2. 手のひらにホコリがついていないか確認
   白い粘土を手のひらで転がすとチェックできます。
3. 手のひらでコロコロ転がして**丸**を作る
   すごく綺麗な丸でなくてOK。ひびやシワは乾燥しても治らないのでこね直す（ただし3回くらいまで。こねすぎると乾燥します）。
4. **キャムロンプロのお尻**をぎゅーっと押しつけて、上にくぼみを作る
   お尻が三角形になっていて、りんごのくぼみにぴったり。
5. くぼみの中心に**爪楊枝を少しだけ**刺す
6. **下半分**を親指と人差し指でつまみ、爪楊枝を回しながら**直線的なライン**を入れる（4〜5回）
   「気持ち直線」くらいで。強すぎるとゴツゴツしたり指紋がつきます。
7. お尻が株のようにすぼまるので、**クリアファイルにトントン**押しつけて平らにする
8. 目打ち（または爪楊枝）で、お尻に**5本の線**を入れる
9. スポンジに刺して乾燥

> ♡ **多少いびつでも大丈夫**
> りんごは形がいろいろなので、多少いびつでもりんごになります。神経質にならなくてOK。

> 💡 **ひび割れ防止：最初の乾燥を遅らせる**
> 丸く成形したものは、水分が一気に抜けるときにひびが入りやすくなります。いちばん水分が抜けるのは**最初の時間**。
> 成形したら**上からタッパーをかぶせておく**と、ゆっくり乾いてひびを防げます。最初の段階だけでOK、あとは外して大丈夫です。

3 りんごを着色する

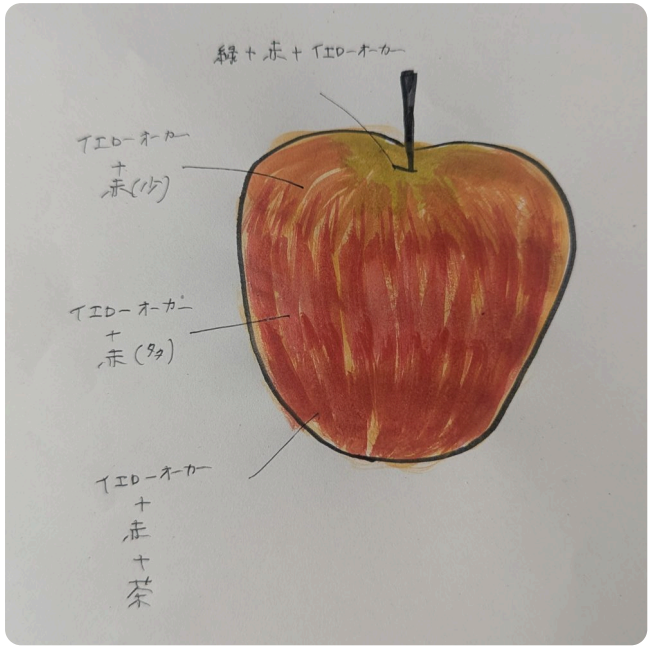
● パーマネントレッド　● 松葉色　● イエローオーカー
● バーントシェナ

- 使う予定の色は**最初に全部パレットに出しておく**
- 粘土に塗る前に、**紙で練習**するのがおすすめ
- 本当は**粘土が乾いてから**塗ります（レッスンでは特別に生乾きで塗りました）

> ⚠ **いちばん大事：縦に塗る**
> りんごの色は縦の要素で入っています。筆は**上から下へ、縦だけ**。横には動かしません。

色の配置

場所	色
ヘタのまわり	イエローオーカー＋赤＋松葉色（緑っぽい赤）
上 1/3	イエローオーカー＋赤（赤少なめ）＝黄色っぽい赤
真ん中	イエローオーカー＋赤（赤多め）＝メインの赤
下 1/3	真ん中の色＋バーントシェナ＝茶色っぽい赤



塗り方の図（すべて縦の線で）

1回目：ベースの色をのせる

1. **ベース全体**：1cm程度の筆で、イエローオーカー＋**ほんの少しの赤、水たっぷり**。全体をざっくり縦に塗る
   ムラがあってもOK。爪楊枝の際まで、薄いベールを作るイメージで。
2. **乾くのを待つ**
   表面を触って絵の具がつかなければ次へ。乾いていないと前の色を引っ張ってしまいます。
3. **ヘタのまわり**：キャムロンプロ 10/0 に持ち替え、ベースの色に**松葉色を少し**。爪楊枝を一度抜き、**くぼみの中〜少し外**まで塗る
4. **上 1/3**：爪楊枝を刺し直す。イエローオーカー＋赤少し、**ベースより水少なめ**で、くぼみの上から縦線をぴっぴっと
   ここではなじんでいなくてOK。
5. **真ん中**：今の色に**赤を足して**濃いめに。縦線で入れる
   境目をビシッと分けず、上1/3にもたまに細い線ではみ出すとなじみやすくなります。
6. **下 1/3**：今の色に**バーントシェナ**を足し、茶色っぽい赤を縦線で

→ 上が黄色っぽく（緑っぽく）、下が濃い赤茶になっていればOK。

2回目：線を重ねてなじませる

1回目のままだと色がパキッと分かれて、ベタ塗りに見えます。ここから線でなじませます。

> ♡ **守ること：線で入れる／間隔をあけて入れる**
> 同じ4色を**1回目より水少なめ**（線が見えるくらいの濃さ）にして、1回目と同じ順番で線を足していきます。

- それぞれの色は**自分の場所以外にも入っていい**
  上の黄色っぽい色 → 真ん中・下まで／真ん中の赤 → 上にも下にも／下の赤茶 → 真ん中まで（上には入れない）
- **配合を少しずつ変える**（イエローオーカー多め・緑多め・赤の量違い）と、色が1色にならずベタ塗りになりません
- 特に**上の黄色っぽい色を真ん中に**間隔をあけて持ってくると、ぐっとなじみます
- くぼみの中も黄色だけでなく、**赤いラインを少し**
- ヘタまわりを塗るときは、爪楊枝を抜くと塗りやすい

> ⚠ **ベタ塗りになる原因**
> あとから入れる線を、全部ガーッと塗ってしまうこと。**間隔をあけて、線を残す**のが大事です。

> 💡 **やめ時が分からなくなったら**
> 塗れば塗るほど訳が分からなくなります。やりすぎても、やらなすぎてもダメ。最初はよく分からないまま終わらせてOK。何回もやるうちにつかめてきます。

お尻の焦げ茶

- **バーントシェナ＋ブラック**で焦げ茶を作り、お尻の5本線の**溝に色を入れる**イメージで少し

白い点々（チャレンジしたい人だけ）

1. キャムロンプロ 100/0で、**ホワイトに赤やイエローオーカーを混ぜた赤ベージュ**を作る
   白そのままだと浮きます。
2. **真ん中 2/3 のエリアに多め**、上下は散らす程度にトントン
3. 目立ちすぎたら、水を足すか色を足して抑える
   指でトントン押さえてもOK。

> ⚠ **入れる場所を絞る**
> 全体に入れると「水疱瘡りんご」になります。「見えるかな？見えるな」くらいのほんのり具合で。せっかくの塗りを損ねることもあるので、今の実力に合わせて。

4 ヘタ・種を作る

ヘタ

1. **ワイヤー28番**を、バーントシェナ＋ブラックの焦げ茶で一周きれいに塗る
2. 乾いたら適当な長さにカット
3. **バーントシェナ＋ブラックで着色した粘土**を用意（ワイヤーと同じくらいの色）
4. ワイヤーの先にボンドをつけて、粘土をこそげ取る
   さくらんぼ・アメリカンチェリーと同じ作り方。ヘタの上のポッチにしたいので、**さくらんぼより少し多め**に。

種

- ヘタと同じ焦げ茶の粘土で、**縦1mmくらいの楕円**
- 大きいと半割りりんごが台無しになるので、**本当に小さく**
- 手で取りにくい人は、粘土をコルネに入れると取りやすい

りんごにヘタをつける

1. 一度差してみて長さを確認。長すぎたらカット
2. ボンドを**たっぷり**つけて、**奥までしっかり**差し込む
   底の粘土と接着していないと取れます。
3. りんごのヘタは**思っているより短め**。ちょっと出ているくらいで

ニスはお好みで。ツヤあり・ツヤなし、どちらでもOK（マキはツヤなし派）。

5 半割りりんごを作る

原型を切る

1. 成形したりんごを**最低3日、できれば5日くらい**乾燥させる
   中まで乾いていないとサクッと切れません。
2. カッターを中心にあて、**真上から見て一本の線**になっているか確認
3. ぎこぎこせず、**すとんと落とすように**切る
   つぶれる・ふにゃっとなるなら、まだ中が乾いていないサイン。

型を取る

1. 形がいい方を選び、**断面に両面テープ**を貼って**プラ板**にぴったり貼る
2. ブルーミックスは**F山盛りくらい**
   多いほど成功しやすいけれど、少なすぎると必ず失敗します。
3. **手早く**混ぜて丸め、平らな面を作って上からしっかり押さえる
4. ひっくり返して、**際まで隙間なく**入っているか確認しながら押しつける
   ヘタまわりのV字の奥は入らないので諦めてOK。

成形する

1. 型に**ベビーオイル**を塗る
   塗らないと取れません。
2. りんごと同じ色の粘土をしっかり詰める
3. **歯ブラシでトントン**：質感をつけながら、**表面を平らに**
   包丁で切った面なので、波打たないように。
4. 目打ちで**真ん中に1本線**
   ピーッと引かず、トントントンと少しずつ。いびつさが出ていい感じに。
5. 目打ちで**種の穴**を開ける
   ハの字に／**大きめ・深め**に（種は小さく）／**2つの穴を中心に近づける**。
6. 穴のまわりが膨らむので、もう一度歯ブラシで整える
7. **デザインナイフで上下のV字**を作る
   型で取れなかったヘタまわりのV字を、粘土を取り除いてしっかり作る。下もV字が弱ければ同様に。
8. 型から取り出し、目打ちを**放射状**に入れてくぼみをなじませる

★ **ポイントは「種の位置」と「上下のV字」**
種の穴が離れると、すぐ間抜けな顔のりんごになります。これだけで見栄えが全然変わります。

⚠ **手早く！**
ゆっくりしていると、型の中で表面が乾いてきます。

着色・仕上げ（完全に乾いてから）

1. **皮の面**を、丸ごとりんごと同じ塗り方で塗る
   上下のV字の部分までしっかり色を入れると、締まって本物らしくなります。
2. **蜜（任意）**：レモンシロップを水でたっぷり薄め、種の穴と中心まわりにちょんちょん
3. **種を入れる**：爪楊枝でボンドを穴に入れ、種を入れ込む
   両方でも片方でも。マキは片方派。
4. **ヘタ**：最後に目打ちで穴を開ける（ギリギリすぎず**少し奥側**）。長さを調整し、ボンドをつけて差し込む

部分	仕上げ
皮	ツヤなしニス
断面	**ジェルメディウム**を綿棒でトントン（質感をつけるように）


完成

Q レッスン中の質問から

桃やいちごのようにパテで原型を作るのと、粘土から型を取るのはどちらでもいい？

りんごは**粘土から**の方がいいです。丸みのある球体をパテで作るのはとても難しいので、球体系は粘土で成形して切った方がきれいに取れます。

いちごも、一粒いちごを半分に切って型を取るのはあり。ただ種の配置をきれいにするのが難しいので、パテの方がやりやすいことも。半割りいちごの山がなだらかになってしまう人は、一粒いちごを半分に切ってみると、どれくらいの山形かが分かります。

指2本で挟むと六角形になります

五角形にしなきゃいけないわけではありません。六角形でも四角形でもOK。**直線のラインを作る**ことが大事です。

★ **上達のポイント**

りんごは**メロンより断然むずかしい**フルーツ。ラボ生でも苦手な人がたくさんいます。初回でうまくできなくて大丈夫。1周・2周してケーキまで進んでから戻ると、色の理解が進んでいることも。

今回の色は**ガイド**。基本ができたら、黄色っぽいりんご・深い赤のりんごにも挑戦してみてください。

🔥 **立ち止まっても「種火」を消さない**

4ヶ月の中には、楽しくてどんどん進む時期も、ひと通り終えて「ふう」となる時期も、家庭の事情で手が止まる時期も必ずあります。立ち止まるのは悪いことではありません。

大事なのは**種火を消さないこと**。種火が残っていれば、また火を大きくするのは簡単です。手が止まっていても、BANDをのぞいてみる。それだけでも種火は燃やし続けられます。落ちている自分にも丸をつけてあげてね。

できたら、ぜひBANDにアップしてね♡
分からないことは、BANDで質問してください
ミニキャン7期 Zoomレッスン